



王ーだより

令和6年11月号
北区立王子第一小学校
校長 岡本直美

教育目標 (な) 仲良く助け合う子 (か) 身体をきたえ元気な子 (よ) よく考え最後までやりぬく子 (し) 親切で礼儀正しい

行事を通して成長を

副校長 水元 満哉

いよいよ11月。一気に涼しさから寒さを感じられる季節となってきました。国連では「地球沸騰化」という言葉も使われ始めた昨今。年々涼しさを感じる時期も遅くなってきているように感じます。四季を感じられる日本のよさが失われないようになってほしいと願うばかりです。

私の住む地域では、10月からプラスチックは、半透明から透明の袋に入れる条例が施行されました。このとき、我が家でも「プラスチックゴミは、透明の袋に入れるんだよね。」と子供たちが話す会話に、少し違和感を感じました。「資源リサイクルのプラスチック」なのか、「プラスチックゴミ」なのか。子供たちであっても、自分事と捉える意識は大切だと感じました。

本校でもSDGsをテーマに校内研究に取り組んでいます。「課題を自分事としてとらえる」ことを主題の一つに取り組んでいます。学年に応じて学習することは様々ですが、学びから気持ちの変化や意識の変化につながり、日常生活にいかされていくことを願います。

涼しい季節となり、休み時間、校庭からは、子供たちが元気に遊び回る声が聞こえてきます。それだけでなく、各教室・廊下などから、素敵な音色が聴こえてきます。子供たちに話しかけると、「まだ、全部は弾けないやあ。」「もう少しで完璧に演奏できそう。」など、反応は様々ですが、子供たちが音楽会に向け、努力している姿、楽しみにしている姿が感じられます。どんなことにも、チャレンジしている姿は、やはり素敵です。

小学校時代は、好奇心旺盛な子供だったので、大太鼓や木琴に挑戦したことを思い出します。挑戦したことはよいのですが、音楽については、かなりの努力を要する方だったと自覚しています。ゆえに、音楽会までみんなの迷惑にならないように必死に努力したことが思い出されます。

子供たちには行事を通して、最後まで諦めずに取り組むこと、みんなで力を合わせ一つのものを作り上げる素晴らしさを感じてほしいと思います。

カスタネット・タンバリン・鍵盤ハーモニカ・大太鼓・リコーダー・ピアノ・・・等、各自が担当するどの楽器が欠けても素敵な音楽にはなりません。みんなが力を合わせ、心を合わせ、素敵な合奏・合唱を奏でてほしいと思います。

10月28日(月)には、明桜中の校庭で6年生児童参加のアスレチックチャレンジが行われました。以前は、北区の小学6年生の全児童が北運動場に集まり実施していましたが、今年度は明桜中サブファミリーに属する小学校4校の6年生が明桜中学校の校庭に集まり、自己記録の更新を目指して取り組みました。子供たちが仲間を応援する姿、仲間の応援に応えようと全力で走ったり、投げたり、跳んだりする姿は、4校だったからこそ味わえたのではないかと感じました。明桜中に限らず、中学校で顔を合わせることになる児童もいると思います。この行事を機に、児童同士が交流を深めるきっかけになることを願っています。

【王ー小ホームページ】
<https://www.city.kit a.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu/oji-ai1/index.html>

